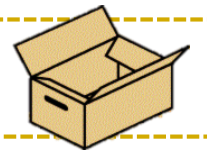
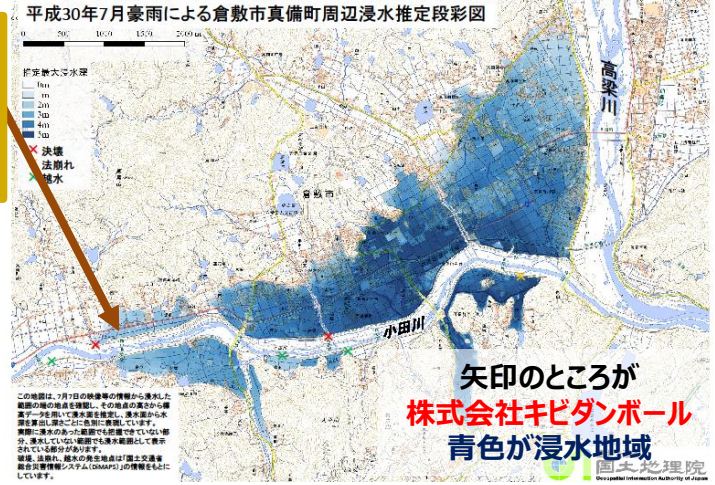
平成30年7月豪雨被災事業所

株式会社キビダンボール（2月8日訪問）

【所在地】岡山県倉敷市真備町尾崎2410-1
【事業内容】段ボールの製造販売　【雇用保険被保険者数】24名
【資本金】1,000万　【代表者】代表取締役社長 石井忠行





製造を担う１階部分が水没し、大きな被害を受けた「株式会社キビダンボール」。従業員の努力や取引先からの協力により、現在は製造ラインも被災以前の状態にまで復旧されています。被災直後の状況、その後現在までの復旧に向けた取組について、石井社長にお話をうかがいました。

被災状況は？

約1m80cm水没し、停めてあった車が見えなくなっていた。工場のシャッターを開けた瞬間、中身があまりにぐちゃぐちゃなので思わず「どうしようか」と声が漏れる状況。機械は全て使用できなくなり、交換又は修理で対応している。社用車も修理又は新規購入となった。
また、重ねて積み上げてあった段ボールは浸水により全て廃棄となり、所蔵数が千を超える印版（段ボールへ印刷するためのハンコ）も被害を受け、洗浄が必要となった。
事務所は2階にあったため、PC類は被害を免れた。

従業員の被災は？

製造部門の7名が被災し、他に実家が被災した者が１名いる。
携帯電話を所持していない従業員が、浸水により自宅の電話が使えなくなり、全員の安否確認ができたのは7月３週目頃と時間がかかった。
８月末まで就業時間を１時間半短縮し、被災した従業員には、家の片付けや書類の提出等、家の用事を優先して休みを取るように伝えた。

被災からこれまでの道のり

週明けの月曜日から従業員の数人と取引先・仕入先の方合わせて10人程度が集まり、営業部門の社員が各所への連絡、他の従業員たちは片付けを担当した。印刷版の受け渡し等、納品までの様々なやり取りを取引先が代わりに引き受けて奔走してくれた。
被災による取引終了はなく、機械の修理が済んだ盆明けから、ダンボールの製造を再開した。
被災当初は事業継続を迷う気持ちが大きかったが、従業員が懸命に片付けをしてくれたことや取引先から「頑張れよ」と声をかけてもらったこと、被害に対する補償の目途がたったことで、次第に継続の決意が固まった。
１２月には被災前と同じ状況まで復旧した。被災前と比べて従業員は2人ほど増加している。

株式会社キビダンボールを訪問して

「片付けの作業を行う工場には空調の設備がないため非常に暑く、水を含んだ段ボールが散乱した床も滑って危なかった。社員たちは本当によくやってくれた。」
被災当時は年内に終わらないのではと予想していた片付けは、2週間と驚きの速さで終わり、従業員や取引先・仕入先への感謝の思いでいっぱいだと話された石井社長。
工場見学の際には、従業員の方々の挨拶の様子などからにこやかな雰囲気でお仕事をされている様子が伺えました。
真備町で被災された従業員も多く、事業主として十分な支援ができたのかと自問されることもあるそうです。しかし、事業継続の決断は、大きな支援のひとつになっているのではないでしょうか。

被災当時の工場内

浸水した段ボール製品

水没で見えなくなった社用車

納品前の段ボール（現在）